同志社大学
Doshisha University

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY

2016-2019

PROGRESS REPORT

“ Go, go, go in peace. Be strong! ”
Mysterious Hand guide you!

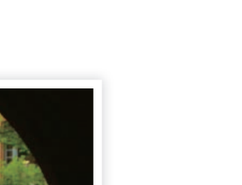
Joseph Hardy Neesima

躍動する同志社大学

新島襄の志を現代へ。
創立150周年の2025年に向け、
人を変え、世界を変えていく
同志社大学ビジョン。

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY



“ Go, go, go in peace. Be strong!
Mysterious Hand guide you! ”

Joseph Hardy Neesima

「躍動する同志社大学」へ。一緒に、この国を、世界を変えていく大きな挑戦。

現在、科学技術が凄まじいスピードで進展し、その高度化した先端技術が産業や社会生活に取り入れられる知識集約型の社会が形成されています。今後の未来社会を牽引する人材を育成すべき教育業界も、この変化に対応するべくパラダイムシフトが求められています。

本学の創立者新島襄は、「智識あり品行あり、自ら立ち自ら治る人民、いわゆる一国の良心とも謂う可き人々」の育成を目指して、1875年に同志社英学校を設立しました。この教育に対する崇高な理念は、新島が江戸末期から明治初期にかけて、約10年間の米国生活で自ら体得した自由の精神、国際人としての感覚を通して形成されたものです。

我々は、この建学の精神を守りつつも、時代の変化に応じた新たな学びの形を創り、次の同志社人養成を目指さなければなりません。そこで、私が学長に着任した2016年に創立150周年に向けた中期計画である「同志社大学ビジョン2025 －躍動する同志社大学－」を策定いたしました。現在このビジョンを通して、学生、教職員、そして校友が一体となり、社会の知見を生かしながらALL DOSHISHAで教育改革を進めています。

今回、学長として私が実施しましたビジョンに関する取り組みを「PROGRESS REPORT（2016－2019）」としてご報告をいたします。この間、EUキャンパス開設や新島塾の開塾、新教育寮の建設推進、募金事業の展開など数多くの新たな事業を実施してまいりました。このREPORTを通して、皆様と躍動する現在の同志社を、さらに未来に向けた志を共有させていただければ幸いです。

同志社大学 学長　松岡 敬

HIGHLIGHTS IN 2016-2019 同志社大学テュービンゲンEUキャンパス

海外キャンパスでの教育・研究体制の更なる充実

同志社大学の教育理念の一つである「国際主義」の伸展と深化を図り、同志社創立150周年に向けて世界を牽引する教育・研究体制を構築するために、本学初の海外キャンパス「同志社大学テュービンゲンEU キャンパス（以下、EUキャンパス）」をドイツ・テュービンゲン大学内に開設。同志社大学とドイツやヨーロッパ諸国をつなぐ新拠点を目指して両大学の学生・教員による学術交流などを積極的に推進しています。

新学舎に本学のEUキャンパスが誕生

テュービンゲン大学では専門図書館を併設したアジア研究・交流の拠点を構築するために、旧眼科病棟の建物の中に同研究所の機能を集結する計画を策定。増改築工事は2022年～2023年に完成予定です。本学のEUキャンパスは新校舎1階に4つの部屋を提供していただく予定です。

両大学の教員交換協定を締結

2018年10月に松岡学長がテュービンゲン大学を訪問し、Bernd Engler学長をはじめとする大学関係者と懇談後、テュービンゲン大学において両大学の教員交換協定を締結しました。本協定に基づき、2019年度には両大学から2名ずつの教員交換がスタートしています。

Photo: University of Tubingen / Verena Muller

EUキャンパスに専任職員を派遣

EUキャンパスプログラムの学生および教員のサポート、その他EUキャンパスで実施する事業推進のため、2019年2月～8月、2020年2月(～8月まで)に専任職員1名を派遣しました。今後もEUキャンパスに専任職員を継続的に派遣する予定です。

EUキャンパスフェローを任用

同志社大学特別研究員がEUキャンパスで研究に従事できるEUキャンパスフェロー制度を新設。2020年度にEUキャンパスフェローを任用し、2020年4月～2021年3月まで派遣することが決定しています。

テュービンゲン大学にてDoshisha Weekを開催

2019年11月、テュービンゲン大学において、Doshisha Weekを開催しました。今回のDoshisha Weekは、両大学の研究交流を目的とした国際シンポジウムで、日本、ドイツをはじめとして、アジア、ヨーロッパの10か国から約50名の研究者や専門家が集まり、5日間にわたる研究発表を行いました。テュービンゲン大学のBernd Engler学長や本学の横川隆一副学長も出席し、今後両大学が教育・研究において連携を更に推進していくことを確認しました。

EUキャンパスプログラムが始動

2019年4月11日（木）～8月11日（日）まで、テュービンゲン大学において、EUキャンパスプログラムを実施しました。プログラムに参加した10名の学生は、テュービンゲン大学の教員によるドイツ語授業やIntercultural Studies（日本学科生との共修科目）および本学教員によるEUキャンパス特別講義を通して、ドイツ語・文化だけでなくEUについて幅広く学ぶ機会となりました。
また、2020年度からは学部専門型教育プログラム「ヨーロピアン・スタディーズEUキャンパスプログラム」を新設します。春学期開講のEUキャンパスプログラムとあわせて、EUキャンパスで年間通じた教育プログラムの提供を行います。

■ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム（春学期開講）
「全学共通教養教育科目」として提供される「セメスタープログラム・ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」、「Intercultural Studies」、「EUキャンパス特別講義」の4科目、合計14単位で構成される教育プログラムです。

■ヨーロピアン・スタディーズEUキャンパスプログラム（秋学期開講）
テュービンゲン大学生との共修科目であるInternational and European Studies科目（6科目）と本学学部科目（6科目）で構成される教育プログラムです。EUキャンパスで学ぶ利点を生かし、テュービンゲン大学の多様な国籍の学生と英語または日本語で共に学びながら、ドイツ、ヨーロッパへの理解を深めます。

同志社大学とテュービンゲン大学が共催で国際シンポジウムを開催

2018年にテュービンゲンEUキャンパス開設記念シンポジウムを開催。その後も研究者間の交流促進と国際共同研究のシード発掘を目的として、本学とテュービンゲン大学が共催で国際シンポジウムを毎年開催しています。

■第1回　『グローバル社会における「国際主義」の新たな形―対立から対話へ』
2018年2月23日　於：同志社大学

■第2回　『高齢化社会への挑戦：学際的アプローチによる日独欧の比較研究』
2019年2月27日～28日　於：テュービンゲン大学

■第3回　『「ダイバーシティ」を尊重する社会構築への挑戦』
2020年2月25日～27日　於：同志社大学

HIGHLIGHTS IN 2016-2019 同志社大学新島塾

リーダーとして身に付けるべき素養や教養の獲得

「同志社大学ビジョン2025」の新たな取り組みの1つとして、同志社大学新島塾（以下、新島塾）を展開しています。新島塾は2018年度の試行を経て、2019年度から第1期生17名を迎え開塾しました。

幅広い教養や論理的思考力の獲得、社会的視野の拡大を目的とする「読書から始まる知の探究」を4月から計12回にわたり実施しました。塾生は、自身の学問分野とは異なる分野の書籍を読み、知識の増大はもとより、異なる学部で学ぶ塾生との議論を通じ、一つの事象には様々な価値観やものの見方・考え方があることを体感しました。

2019年9月7日（土）～10日（火）には、「2040年頃の時代でも通用する普遍的な学力は何かを知り、それをいかに獲得すれば良いか」をテーマに「合宿で鍛える知的基礎体力」を敢行しました。塾長である松岡敬学長、作家の佐藤優特別顧問、後藤琢也学長補佐を講師に迎え、ユヴァル・ノア・ハラリの「ホモ・デウス」を課題図書に「総合知」と「資源・エネルギー・情報」をテーマに、小テスト・レポート作成・討論を繰り返し行いました。塾生は、日常から離れて塾生や講師と時間・空間を共有して語り合い、学びの刺激を得るなど厳しいながらも実り多い合宿となりました。

2019年11月16日（土）には、各界のリーダーの思考や規範を学ぶことを目的とする「リーダーに学ぶ徳力の涵養」を実施しました。本学の卒業生で株式会社ANA総合研究所代表取締役副社長である河本宏子氏を講師に迎え、これまでの経験や学びから得たノウハウや仕事のエピソードなど、これからの時代を生きるための重要なヒントを語っていただきました。塾生はグローバル社会におけるリーダー像や理念について質問し、グローバル企業を牽引する本物のリーダーの思考を学ぶ良い機会となりました。

新島塾は学部2年次から通算2年間を入塾期間としており、2020年度は新たに第2期生15名を迎え入れ、第1期生と第2期生が共修します。新島塾ではプログラムを通して、先の見えない時代を生き抜くにふさわしい、リーダーシップとフォロアーシップを兼ね備えた人物の養成を目指します。

プログラム

新島塾は「読書から始まる知の探究」、「合宿で鍛える知的基礎体力」、「リーダーに学ぶ徳力の涵養」の必修プログラムを柱に、正課科目を中心とした選択必修プログラム、課外活動の取り組みを中心とした選択プログラムの３つのグループで構成。座学と実習を融合しながら塾生をより深い学びに導きます。

必修プログラム紹介

読書から始まる知の探究

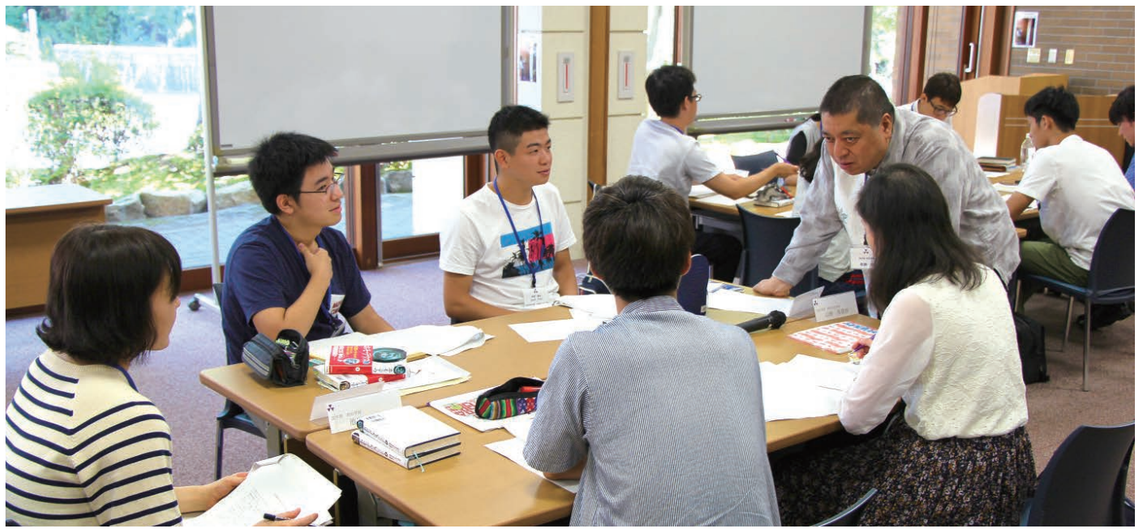
課題図書を読み、あらかじめ指定された読書後の活動（書評の執筆、課題図書のテーマに関するディベートやフィールドワーク等）を通して取り上げられる問題を考察、探究し、幅広い教養や論理的思考力の獲得、学知の奥深さ、社会的視野の拡大と意欲の醸成、豊かな感性を育みます。

合宿で鍛える知的基礎体力

日常生活から離れて塾生や講師と時間・空間を共有して語り、仲間と協働する価値を学ぶことに集中します。合宿中は担当教員による講義の受講と確認小テストを繰り返し、事後レポートの作成や討論を行って、専門分野に留まらない学知の必要性を思い知るとともに、複雑な社会情勢を読み解くための基礎力を培います。

リーダーに学ぶ徳力の涵養

各界のリーダーを招いてあらかじめ設定したテーマに関して対話・討論し、人生の岐路となった経験、リーダーとして下した重大な決断、対面した危機や困難をどのように克服して乗り越えたか等を知り、その思考や規範を学び、ロールモデルを発見します。



HIGHLIGHTS IN 2016-2019 ALL DOSHISHA 教育推進プログラム

次代の人物を養成する新しいプログラムの構築・支援

2025年の創立150周年に向けて掲げた「同志社大学ビジョン2025」を推進していくために、2018年度から「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」を立ち上げました。

このプログラムでは、学部及び研究科から、本学がビジョンにおいて掲げたテーマに即した質の高い教育プログラムの提案を求め、大きな成果が期待できる取り組みに対して、事業経費を学長がサポートし、事業の推進を支援しています。そこで得られた様々な教育効果を全学で共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成するプログラムを新たに構築することが期待されています。

2018年度から2020年度にかけて募集を行い、計9件のプログラムを採択しました。現在は7学部、3研究科が実施に関わり、民間企業26社、官公庁9機関、他大学・高等学校8校、社会福祉法人1機関との連携や協力を得てプログラムを展開しています。

採択プログラム

- ALL DOSHISHA 論理的思考教育プログラム
- 産官学連携を中核としたキャリア形成プログラムの策定
- グローバルマインド養成を目的とした日本人学生と外国人留学生との共修プログラム
- 安全・安心のための課題解決能力をもった良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム
- ALL DOSHISHA サイエンスコミュニケーター養成プログラム
- 社会実践のためのブレンディッド・ラーニングの構築－「地の塩」プロジェクト
- 「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラムの開発とその強化
- アカデミック・ポートフォリオを活用したセルフ・プロデュース型キャリア能力開発システムの構築
- 国際ビジネス教育の展開　－多文化共生時代のビジネス・マインド－

＊「ALL DOSHISHA 論理的思考教育プログラム」では、2019年度から全学共通教養教育科目「論理的思考の基礎（1）」及び「論理的思考の基礎（2）」を全学部生対象に開講しています。

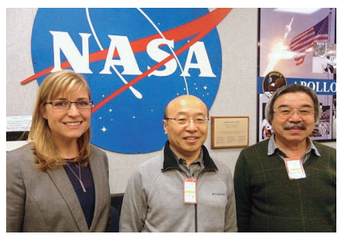
＊「ALL DOSHISHA サイエンスコミュニケーター養成プログラム」では、文学部、社会学部、法学部、経済学部及び生命医科学部の学生が共修する「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」を置き、教育成果や教育的効果を全学的に波及する取り組みを展開しています。

HIGHLIGHTS IN 2016-2019 宇宙生体医工学研究プロジェクト　文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」

異分野融合の研究で人類の健康増進に大きく貢献

日本では超高齢化社会を迎え、平均寿命と健康寿命（健康で自立して活動できる生活期間）の乖離が問題となっています。宇宙環境などの微小重力環境下では、筋力をはじめとする身体諸機能の低下が比較的短時間で顕在化します。本学の先端的教育研究拠点に指定した「宇宙生体医工学研究プロジェクト」では、ロコモティブシンドロームの主な原因が抗重力筋活動の低下にあることに着目し、微小重力模倣環境を使った実験等を行い、これら地球上の健康課題の解決策に挑みます。

本プロジェクトは、新たな領域である「宇宙生体医工学」を研究対象とし、「人間の健康に関する研究」をテーマに本学の理工学、生命医科学、スポーツ健康科学、脳科学などの各分野の統合化を図り、NASA（アメリカ航空宇宙局）ジョンソン宇宙センター、カリフォルニア大学、イタリア・ジェノヴァ大学などとの共同研究を展開。歩行困難者などに向けた新規運動療法や先進機器の開発、骨格筋萎縮の抑制や防止、再生を促す創薬研究への寄与、肥満症の予防や改善、軟骨や欠陥の再生医療など数多くの成果を目指しています。



VISION 01

学びのかたちの新展開

課題解決型教育やインターンシップ科目など学生の主体的な学びを更に促進。
また、リーダー養成プログラム、大学院改革など、意欲ある学生が能力を伸長できる教育も積極的に提供。
先行き不透明な時代を自ら切り拓く力を高めます。

VISION 051 Case #01 同志社大学・大和総研 データサイエンス分野における包括的教育研究協力協定を締結

同志社大学と株式会社大和総研は、ビジネスドメインとデータサイエンススキルを併せ持つ人材育成の推進を目的として、今後の更なる連携強化を目指し、データサイエンス分野等における包括的な教育研究協力に関する協定を締結しました。

調印式には、松岡敬 学長、植木朝子 副学長、草木頼幸 大和総研代表取締役社長、中島大同常務執行役員が出席しました。松岡学長は「同志社大学は自然科学の対象ではなかった「文化」を「データサイエンス」の手法で探究する文化情報学部および文化情報学研究科を我が国の中でも先駆けて設置し、文理融合型のデータサイエンス教育に注力してきました。大和総研の力添えを得て、文理融合教育モデルを全学展開し、人間の積み重ねてきた知見と最先端テクノロジーが融合する新たな課題解決スキームの構築を目指していきます」と決意を述べました。

すでに、国内・国外における学生インターンシップの受け入れや、学生のキャリア開発・データサイエンス教育のための講師派遣を行うことが決定しています。大和総研との連携を通じて、技術だけに偏らないAI・データサイエンスの素養を有した人物の輩出に努めています。

Case #02 京都市教育委員会と連携協定を締結

同志社大学と京都市教育委員会は相互の連携協力を推進し、京都の学校教育の充実や教育上の課題解決に向けた取り組み、双方の教育の充実・発展に寄与するための連携・協力に関する協定を締結しました。今回の協定締結により、本学が教職課程科目として開講している「スクールインターンシップ」での協力をはじめ、学校教育の更なる発展に向けて連携と協力を図っています。

Case #03 全学共通教養教育科目「クリエイティブ・ジャパン科目」（科目区分）を新設

「クリエイティブ・ジャパン科目」（科目区分）は、伝統、文化、芸術への高い関心を育み、「感性価値」の創造と受容の基礎となる力を身に付けて、創造力を涵養することを目的としています。「日本文化の魅力とは何か」「グローバルに受容される価値とは何か」について考察し、「京都から日本全国、そして世界へ」と広がる視野を養います。

Case #04 令和元年度科学技術人材育成費補助事業「地域課題に対応するコミュニケーションの推進事業」に選定

令和元年度科学技術人材育成費補助事業「地域課題に対応するコミュニケーションの推進事業」に選定されました。選定された取り組みは、「京都発世界に通じるオンリーワン技術の継承」で、2016年度から開設しているサイエンスコミュニケーター養成副専攻を基盤として、地域の課題を解決するための科学コミュニケーション活動に携わる人物の養成を目指します。

- 佛教大学と同志社大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定を締結
- ラーネッド記念図書館に最先端のスペース・設備を備えた「ラーニング・コモンズ」を新設
- 日本経済新聞社と連携し、全学共通教養教育科目「メガトレンドを読む」を開講（2020年度～）
- 「法学研究科ダブルディグリープログラム」が独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定派遣）（双方向協定型）に採択
- ダブルディグリー協定を推進
（2016-2019年度 新たな実績：法学研究科2機関、理工学部・理工学研究科及び生命医科学部・生命医科学研究科1機関、理工学部・理工学研究科1機関）
- 連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等の締結を推進
（2016-2019年度 新たな実績：2016年度3件、2017年度2件、2018年度5件、2019年度1件）
- 神戸大学（大学院法学研究科）及び同志社大学（法学部）の法曹養成連携協定を締結
- 同志社大学大学院司法研究科及び西南学院大学法学部の法曹養成連携協定を締結
- 滋賀医科大学大学院医学系研究科と同志社大学大学院生命医科学研究科との間における特別研究学生交流協定
- 同志社大学大学院文化情報学研究科とデュッセルドルフ大学人文学部（ドイツ）との間における特別研究学生交流協定
- 慶應義塾大学大学院法務研究科と同志社大学大学院司法研究科の間における連携に関する協定を締結
- 総合研究大学院大学理科学研究科と同志社大学大学院理工学研究科との間における特別研究学生交流協定を締結
- 先端的及び学際的大学院教育プログラムの開発や全学的な教育推進機能を担う「高等研究教育院」（教学組織）を新たに設置
- 大学院生に対して異分野理解力を図ることを目的として「他研究科・専攻科目履修促進事業」を開始
- 「Community5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」を生命医科学研究科医工学・医情報学専攻と文化情報学研究科文化情報学専攻に横断する大学院教育プログラムとして開設（2020年度～）
- 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」を全研究科・専攻に展開
- 同志社大学内部質保証推進規程を制定し、新たな内部質保証システムを構築
- 全学部・研究科にてアセスメント・ポリシー、ルーブリックを策定
- 「同志社大学クロスアポイントメント制度に関する規程」に基づく研究員派遣を開始

VISION 02

キャンパスライフの質的向上

スポーツ・文化・社会活動などの正課外教育の推進、地域コミュニティとの連携強化、
そして学生や留学生を支える奨学金制度の充実。また、学生寮設置など、
ソフト・ハード両面でこれまで以上に多様性豊かなキャンパスを目指します。

VISION 02 Case #01 「世界学生環境サミット2018」を本学で開催

2018年8月26日～30日の5日間にわたり、同志社大学今出川キャンパスとびわこリトリートセンターにおいて、「世界学生環境サミット2018」が開催され、世界14カ国・地域の16大学、約100人が集結しました。

同サミットは2008年7月に北海道・洞爺湖で行われた主要国首脳会議（サミット）に意見書を提出しようと、本学の学生有志らの発案で始まり、その後、世界各地で開催され2018年で10回目を迎えました。今回のサミットでは、学生たちが「水環境と環境対策」「災害対策」「科学技術と産業創出」の各分化会に分かれ、海外の学生と本学の学生が白熱した議論を展開しました。最終日の30日に本学の寒梅館ハーディーホールで行われた閉会式では、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典東京工業大学栄誉教授のビデオメッセージが披露されたほか、5日間の成果をまとめた「学生意見書」を発表し、環境省・国際連合に提出しました。なお、サミットで得た様々な成果を在学生へ還元するため、学内にて成果報告会を開催しました。

Case #02 ラーネッド記念図書館をリニューアル

次代に向けた新たな「学びの拠点」を提供するために、京田辺校地のラーネッド記念図書館を2018年1月にリニューアルしました。各階にはリラックスして学習できるセルフラーニングスペースやグループ学習スペースなど、多様な用途に対応できる設備を整備しました。リニューアルされたラーネッド記念図書館はアクティブラーニングとグローバル学修支援機能を備えた空間として新しく生まれ変わりました。

Case #03 同志社大学環境宣言を制定

2018年9月に環境に関する方針や目標を反映した「環境宣言」を制定し、継続的な環境マネジメントに取り組んできました。こうした取り組みや関連法規への対応が認められ、2019年今出川校地・京田辺校地において、KES・環境マネジメントシステム・スタンダード（ステップ1）に登録されました。今後はさらに高い意識を持って、より一層の環境改善活動に取り組んでいきます。

Case #04 同志社大学初の教育寮を建設（2021年完成予定）

同志社大学では、2021年9月完成予定の新しい学生寮を建設しています。新学生寮は、日本人学生と外国人留学生が混住し、寮生が設定されたミッションに取り組みながら共修するもので、これまでの本学にはなかった新たなスタイルの寮となります。多文化共生、地域社会との異世代共生を実践する生活を通して、多様な価値観を理解し合い、新たな創造へ導く力を持つ人物の養成を目指します。

- 同志社大学ボランティア支援室「大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ宣言」を表明（京都市社会福祉協議会及び京都市内5大学）
- 同志社大学ラグビー部が独立行政法人国際協力機構（JICA）と海外協力隊派遣に向けた連携事業を実施
- 健康増進法改正に伴う大学敷地内の受動喫煙防止対策を決定
- 「同志社大学古本募金」を開始（2019年12月末時点：1,485,234円（50,936点）の支援）
- 高等教育の修学支援制度（高等教育無償化）に添った奨学金体制の構築
- 同志社大学奨学金基金の拡充
- 自然災害による被害に伴う学費等減免の特別措置
（2016-2019年度 実績：対象61人、合計13,475,000円）
- 「同志社大学ダイバーシティ推進のための方針」を策定
- 「同志社大学スポーツ憲章」を策定
- 「寮政策の基本方針」を策定
- ボランティア支援室の設置及び活動の推進
（地震災害ボランティア活動、体験ボランティアプログラム、同志社つながる@カフェ等を実施）
- 「同志社大学のおいしこ」を実施（2016-2019年度 実績：33教室開催、参加者数533名）
- 「寒梅館夏まつり」を開催（2016-2019年度 実績：参加者 小学生787名、保護者581名）
- 「同志社大学サイエンスアカデミー」を実施
- 函館・熊本キャンプを開催
- 同志社大学スポーツ健康科学部、京たなべ・同志社スポーツクラブ開設10周年記念合同スポーツフェスタを開催
- 自転車運転マナー講習会を開催（2016-2019年度 実績：135回開催、参加者数11,901名）
- 同志社大学寄付奨学金表彰式にて学生を表彰
（2016-2019年度 実績：表彰者64名、支給額6,400,000円）
- 同志社大学育英賞表彰式にて学生を表彰
（2016-2019年度 実績：表彰者400名、支給額120,000,000円）
- 同志社大学体育会表彰式にて学生を表彰
（2016-2019年度 実績：表彰者141名、62団体）

VISION 03

創造と共同による研究力の向上

様々な学問領域で800名超の研究者が学術研究を進めている総合大学の特色を生かし、
文理融合や領域横断による融合研究を創出。
世界規模での産官学連携、技術移転活動の推進によって本学の研究力を高めていきます。

VISION 03
Case #01

ダイキン工業株式会社と包括的な教育研究協力に関する協定を締結

同志社大学とダイキン工業株式会社（以下、ダイキン）は個別の技術的課題に取り組む共同研究に留まらず、産官学で総合的に地球環境を考える活動を展開することを見据えて、包括的な教育研究協力に関する協定を締結しました。

この協定を機に、本学の大学院学生がリサーチアシスタントやインターンとして参画する共同研究が増え、連携大学院方式による研究指導もより充実したものとなることが期待されます。また、本学では本協定の推進実施母体として、先端的教育研究拠点「同志社－ダイキン「次の環境」研究センター」を新たに設置しました。本センターでは、次の時代に必要となる「環境とは何であるか」を探求するために必要な研究・教育を多角的に展開します。例えば、同志社大学の基礎研究を軸とし、ダイキンの技術者とともに温暖化ガスであるCO_2の回収・分解・選別・再利用のための技術開発を行うことも取り組みの一つです。さらに、温暖化ガスの減少を単なる技術的な課題に矮小化せず、健康、環境、エネルギー、経済問題など、複雑な人間社会そのものに根ざす問題として総合的に捉え直し、多様な観点から「地球環境」を考えることができる人物の養成にも取り組みます。

本連携が核となり、社会連携による教育研究活動が更に展開していくことを期待しています。

Case #02

大学初！ 同志社大学と文化庁が研究交流に関する包括協定を締結

文化、芸術、文化情報など多様な研究領域を持つ本学は、文化庁が初めて公募した大学・研究機関等との共同研究事業に応募し、同志社大学創造経済研究センターが第1号として採択されたことを受け、本学と文化庁は研究交流に関する包括協定を締結しました。本協定により、相互の人的、知的、物的資源の交流と活用を図り、研究に関わる交流や情報交換を促進させています。

Case #03

「同志社大学 - 理化学研究所連携研究室」を設置

同志社大学赤ちゃん学研究センターと理化学研究所医科学イノベーションハブ推進プログラムの健康医療データ多層統合プラットフォーム推進グループは、「生体リズムに着目した発達障害の解析」や「胎児心電図計測技術の高度化」など多様な共同研究に取り組んできました。2018年1月、本研究プロジェクトを一層推進していくため、「同志社大学 - 理化学研究所連携研究室」を設置し、研究者が共に活動できる場を整備しました。

Case #04

日本初！「京都国際調停センター」が始動

同志社大学を本拠に、公益社団法人「日本仲裁人協会」（JAA）が設置・運営する「京都国際調停センター」が2018年正式に活動を開始しました。京都国際調停センターは、日本初の国際調停センターとして、世界各国の企業などに対して、友好的かつ安価で迅速な紛争解決の場を提供するものです。世界で活躍する法曹界の皆さまからは、京都国際調停センターの活動に大きな期待が寄せられています。

- 同志社大学と株式会社資生堂とKODOMOLOGY株式会社の3者における包括的研究協力に関する協定を締結
- 同志社大学と木津川市との子どもの睡眠リズム改善に関する共同研究契約を締結
- 赤ちゃん学研究センターが文部科学省共同利用·共同研究拠点に認定
- 科学研究費助成事業の採択推進
  2016年度 採択率過去最高37.6%（新規＋継続の配分件数が300件以上保有の上位50機関中、全国1位）、2017年度 採択金額 過去最高 9億9千万円を達成
- 科学技術振興機構研究成果展開事業 世界に誇る地域研究開発·実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラムに参画
- 日本医療研究開発機構脳科学研究戦略推進プログラムに採択
  （研究開発課題名：血漿Aβによるアルツハイマー病バイオマーカー探索と脳内Aβ動態解析）
  （研究開発課題名：認知症関連シード制御機構の解明と治療基盤の開発）
- 日本学術振興会課題設定による先導的人文学·社会科学研究推進事業に採択
  （研究テーマ名：共感形成の社会基盤とソーシャル·ビジネスを活用した新産業創造の研究）
  （研究テーマ名：新たな価値を創造する文化遺産活用の国際共同研究 ユーザー関与度深化、地域作りの視点）
- 日本学術振興会研究拠点形成事業（core-to-core）に採択
  （研究交流課題名：光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成）
- 同志社大学安全保障輸出管理規程の制定及び管理体制の構築
- 戦略的産学連携に関する中期行動指針を策定
- 本学の研究活動の更なる活性化を図る研究センター制度の改革
- 「研究機関における公的研究費の管理·監査のガイドライン（実施基準）」に対する着実な対応
- 科学技術振興機構researchmapと本学研究者データベースの連携による成果·情報発信の強化
- 海外向けの「研究·産官学連携」サイト（https://research.doshisha.ac.jp/）の構築
- 研究シーズ情報のWEB公開による産官学連携推進
- 同志社大学EUキャンパスにて国際研究シンポジウムDoshisha Weekを開催
- 東京オフィスにて新ビジネスフォーラムを開催
- 産学連携活動を広く社会に発信するリエゾンフェアを開催
- 研究開発推進機構事務機能の一拠点化による業務集約·円滑運営

VISION 04

「志」ある人物の受入れ

世界中から優秀で多様な背景を持つ学生を受け入れるため、入試制度改革に取り組みます。
国際的教育プログラムや語学検定を活用する入試、海外修学経験者入試などのほか、
生徒のこれまでの努力や実績、意欲を評価する入試を導入します。

VISION 04
Case #01

「科学するガールズ」養成プログラムのガールズ・サイエンスキャンプを実施

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択された、「科学するガールズ」養成プログラムの一環としてガールズ・サイエンスキャンプを実施しました。ガールズ・サイエンスキャンプは本プログラムの中でも特に力を入れている取り組みで、理系進路を考える上で必要な要素を網羅。女子生徒向けとしては珍しい「物理の楽しさ」と、今後の理系に必須の「グローバル」をキーワードに構成したコンテンツが特色です。

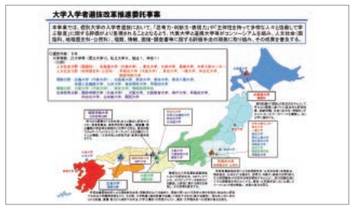
本キャンプでは、同志社大学理工学部や生命医科学部の教員と大学院TA（ティーチング・アシスタント）の指導のもと実験体験を実施。また、「女子中高生と保護者、女性エンジニアとの交流会」では、株式会社堀場製作所、株式会社椿本チェイン、オムロン株式会社、富士通株式会社から女性技術者を招き、理系を志したきっかけや仕事の醍醐味などを話し合う交流を行いました。

企業や教育委員会など様々な機関と協力して一連のプログラムを継続することで、女子生徒の理系選択における疑問や戸惑いを解消し、真に希望する進路を選択することができるよう支援を続けています。

Case #02

平成28年度 文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」連携大学として選定

「大学入学者選抜改革推進委託事業」は、個別大学の入試で「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価がより重視されることとなるよう評価手法の開発に取り組み、その成果を全国の大学に普及させる事業です。本学は「主体性等分野」及び「人文社会分野（地理歴史科・公民科）」の両事業において連携大学として選定されました。



Case #03

平成31年度 文部科学省「大学入学者選抜改革推進委託事業」に連携大学として選定

JAPAN e-Portfolioを管理運営するために2019年3月から発足した「一般社団法人教育情報管理機構（EIMO）」に設立発起人として参画。2019年度公募事業「電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究」に連携大学として選定されました。

Case #04

中・高校生を対象に「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催

同志社大学の研究者が独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」に採択され、科学研究費助成事業（科研費）による研究成果を、中・高校生を対象にわかりやすく発信しています。大学で行っている最先端の研究成果の一端に触れる機会を提供することで、中・高校生の知的創造性を育むことを目指して事業を展開しています。

- 入学定員の厳格化に伴う学部入学定員変更
- 文部科学省の「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を受け、2019年3月に「2021年度 同志社大学入学者選抜における本学の基本方針について」を策定·公表
- 自然災害による被害に伴う入学検定料等減免の特別措置
  （2016-2019年度 実績:対象65人、合計1,665,000円）
- 学部学科の名称を変更（理工学部エネルギー機械工学科 → 理工学部機械理工学科）
- 2017年度一般選抜入学試験からインターネット出願を開始
- 高大接続ポータルサイト「JAPAN e-Portfolio」を活用した出願を開始（AO入試）
- 高校生に学部選択の機会を与えることを目的にした「大学入学準備講座」を開講
  （2016年度10講座、2017年度13講座、2018年度11講座、2019年度14講座）
- 高校生「志」コンテストを開催（2016-2019年度 実績:172校、586作品応募）
- 「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」進路·入学者担当会議を開催
- 上海日本人学校高等部協力大学会議及び協力大学説明会に参加
- 春のキャンパス見学会を開催（2016-2019年度 実績:10,454名参加）
- 春の入試説明会を全国17都市で開催（2016-2019年度 実績:5,480名参加）
- 秋の入試説明会を全国18都市で開催（2016-2019年度 実績:14,547名参加）
- オープンキャンパスを開催（2016-2019年度 実績:78,968名参加）
- 同志社合同学校説明会を協力開催（2016-2019年度 実績:1,319名参加）
- 進路指導ご担当者様対象入試説明会を全国5都市で開催
  （2016-2019年度 実績:1,351名参加）
- 東京サテライト·オフィスにて首都圏の高等学校長向け高大接続シンポジウムを開催
- 「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」の一部の高等学校を対象に、「主体性」及び「思考力」を育むためのアクティブラーニング型高大接続プログラムを実施
- 法人内高等学校の生徒を対象に、同志社大学入学後の留学に向けた説明会を開催
- 留学フェア（インドネシア）、日本語プレゼン大会（中国）にあわせた外国人留学生対象入試広報を展開

VISION 05

「国際主義」の更なる深化

2017年度ドイツに開設したテュービンゲンEUキャンパスの教育体制を整備するなど、
留学機会を更に充実。留学経験を持つ学生の比率を全学生の30%に、
外国人留学生の受入れを全学生の13%に増やし、国際性を更に強化します。

VISION 05
Case #01

マハティール マレーシア首相への同志社大学名誉文化博士を贈呈

マハティール・ビン・モハマド氏は、1964年にマレーシア下院議員に当選し、教育大臣、副首相、貿易産業大臣などを歴任した後、1981年から2003年まで首相を務め、東アジア地域主義の推進に力を注ぎました。また、1982年に始まったルックイースト政策は、日本とマレーシアの関係強化に貢献するとともに、マレーシア人の教育・訓練を通じて、マレーシアの経済成長や国家建設に寄与しています。2018年5月の選挙に勝利し、92歳にして再び首相に就任、同年11月には日本・マレーシア間の関係強化及び友好親善に寄与したとして桐花大綬章を受賞されています。2018年の首相就任後、マハティール氏は政府機関における汚職などの一掃、抑圧的な法律の撤廃や改正、司法機関の独立性の回復などの法・政治制度改革を進められました。

自由民主主義の後退が懸念される今日、同氏の改革努力は世界的な意義を持ちます。また、東アジア地域主義の促進、ルックイースト・ポリシーによる教育・国家建設の功績、法の支配の回復に向けた努力は立憲主義の擁護に向けられたものであり、それは本学の建学の精神である良心教育に連なるものです。このことから、本学はマハティール氏に名誉文化博士の学位を贈呈しました。

Case #02

京都市「京（みやこ）グローバル大学」促進事業を完遂

京都市の平成28年度新規事業である「京グローバル大学」促進事業に、本学応募の事業「京都と世界をつなぐグローバルキャンパス“DOSHISHA”」が採択されました。採択を受け、海外協定校の新規開拓・既存協定校との連携を強化し、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ環境を整備しました。また、外国人留学生の生活支援やキャリアサポートを充実させ、外国人留学生の受入を推進しました。

- 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（GGJ）」の事後評価結果において、総括評価「A」を獲得
- 独立行政法人国際協力機構（JICA、以下JICA）と、JICA研修員（学位課程就学者）受入に係る覚書及び研修員受入委託契約を締結
- JICAのアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）「修士課程およびインターンシップ」プログラムにおいて受入大学に選定
- 地域別や目的別等の各種説明会、語学力向上や資金計画等の各種相談会を集中的に実施する「留学促進WEEK」を開催（2018-2019年度 実績：2,973名参加）
- 大学間派遣留学制度における新たな選択肢として語学研修＋専門科目を学ぶことができる「ブリッジプログラム」の導入（ニュー・サウス・ウェールズ大学）
- 留学プログラムへの申請を前提とした外部語学試験受験料補助制度を新設
- 理工学研究科の「データ駆動型グローバル社会リーダー養成プログラム」が、文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択
- 博士課程リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」を履修する外国人留学生の経済的負担軽減とキャリア形成支援を目的とした特別奨励金制度を2019年度から導入

Case #03

T.I.M.E. General Assembly に参加、アジア唯一のAdvisory Committeeに選出

2019年10月にフランスのUniversité Paris Saclay および CentraleSupélec にて開催された欧州理工系大学コンソーシアムである T.I.M.E.（Top International Managers for Europe）Associationの General Assembly 2019において、本学が Advisory Committee のメンバーにアジアの大学から唯一選出されました。

- 東京海上日動火災保険株式会社との海外旅行傷害保険の包括協定により、保険適用される留学範囲を、学部間協定による派遣留学・認定留学、個人手配による語学留学・学部留学、海外で実施する課外活動等にも拡大
- 「派遣留学奨学金」「認定留学奨学金」「サマー・スプリングプログラム奨学金」を増額
- 同志社大学－ハーバードサマースクール10周年記念イベントを開催
- 海外向けのDoshisha Global Movieを制作し、本学公式YouTubeにて配信
- 派遣留学及び全学共通教養教育センター提供プログラムでの海外渡航者数の増加
- 外国語honors（外国語科目成績優秀者表彰制度）表彰者数の増加（2016-2019年度 実績：220名）
- グローバル人材として本学が認定するDoshisha “Go Global”Passport認定者数の増加（2016-2019年度 実績：481名）
- 大学間交流協定大学の拡充（46ヵ国・地域199大学）
- 学生交換協定大学の拡充（37ヵ国・地域159大学）
- 学術交流協定校との交換教員の派遣・受入
- チュニジア労働総同盟事務総長フサイン・アッバーシー氏に同志社大学名誉文化博士を贈呈

Case #04

韓国父母懇談会を開催

韓国父母懇談会は同志社大学関係者・卒業生との懇談の場を設けることにより、本学の取り組みや外国人留学生に対する支援、卒業生の活躍、本学の社会的評価を韓国人留学生の父母に周知し、留学させることへの期待と安心感を高めることを目的としています。韓国人留学生数は年々増加しています。韓国父母懇談会などの機会を利用して本学の情報発信を更に強化していきます。

VISION 06

ブランド戦略の展開

SNSを活用した情報発信や、効果的な広報活動を実施。
また、卒業生が同志社人であることを幸せに感じる大学であり続けるため、
在学生との交流、卒業生同士の交流など生涯にわたって絆を深めるための活動を展開していきます。

VISION 06
Case #01

AERA ムック 大学シリーズ『同志社大学 by AERA』を全国の書店で販売

卒業生、保護者等のステークホルダーが誇りに思える、同志社大学の魅力を余すことなく伝えるため、AERA ムック 大学シリーズ『同志社大学』を同志社校友会協力のもと発行し、全国の書店で販売しています。

生前、新島は勝海舟に「大学の完成には200年を要する」と語ったと伝えられています。同志社大学では現在、大学完成の集大成につなげるべく、創立150周年を迎える2025年に向けて「同志社大学ビジョン 2025」を策定し、積極的に大学改革に取り組んでいます。本誌では、新島が同志社に思い描いた理想の教育は、現在、どのように具現化されようとしているのか。企業や政財界、国家機関、地方公共団体、国際協力機関、芸能、スポーツ、小中高等学校及び大学の教員をはじめ、あらゆる業界、分野、職種で活躍する「同志社人」を多数取り上げ、同志社人としての矜持を浮き彫りにしています。

また、同志社大学が取り組んでいる多様な教育・研究活動の様子を紹介。これからの未来へ向けた取り組みについても迫っています。先行き不透明な今日においても決して色あせることなく、脈々と受け継がれている「同志社精神」の魅力を今後も社会に発信していきます。

Case #02

全国市町村長クローバー会設立

同志社大学に学び、地方行政の舵取りを担う市町村長19人により、「全国市町村長クローバー会」が2017年8月20日に設立しました。（人数は設立時点）会長に、堀口文昭八幡市長を選出後、松岡敬学長、藤澤義彦副学長と各自治体の現状（地域創生、地方自治等）や大学との連携について語り合いました。本学の卒業生である市町村長と情報を交換し、密に親睦を図ることによって地域連携を進めています。

- 首都圏のマスコミ関係者を対象に東京サテライト･キャンパスでメディアセミナーを実施
- 大学公式 twitter、大学公式 微博（Weibo）を開設
- AR（Augmented Reality）対応キャンパスマップ（今出川・京田辺キャンパス）を発行
- Google ストリートビューを活用したキャンパスの紹介
- 文教担当記者に直接ニュース配信が可能な「大学通信大学プレスセンター」を導入
- ブランディング･サイト”Living in Doshisha”（英語）、”WHO ARE WE?”（日本語）を開設
- 九州メディアクローバー会、東京メディアクローバー会を設立
- 校友連携コーディネーター体制の構築
- KBS京都ラジオ「さらピン！キョウト」に本学教員が出演（2020年1月～3月、毎週1回3時間）

【出版物】

- 『世界』2018年2月号（岩波書店）　松岡 敬（同志社大学学長）×佐藤 優（作家）
  ＜対談＞ いま「大学で勉強する」ということ －五〇年後の日本社会と高等教育－
- 『サンデー毎日』2018年4月1日号（毎日新聞出版）
  ［“私学3雄”トップ鼎談］早稲田、慶應、同志社 日本と大学の未来を語ろう
- 『PRESIDENT』2019年8月16日号（プレジデント社）
  「バイトやサークルの経験を誇る学生は役に立たない」

Case #03

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」協力体制の構築と推進

「同志社大学ビジョン2025」を着実に進めていくため、学長室募金課や募金実行委員会、並びに寄付の依頼先に応じた部会を設置しました。これらを中心として同志社校友会をはじめ卒業生との連携をより一層深め、その支援を得ながら募金活動を強化し、個人への募金活動と企業・団体への募金活動を推進しています。また、各種顕彰制度を構築し寄付者銘板を設置、募金事業期間内（2017年10月～2026年3月）の寄付累計額に応じてご芳名を順次掲載しています。

- 『新・リーダーのための教養講義』2019年9月13日（朝日新聞出版）
- 『週刊新潮』2020年2月13日号（新潮社）
  「佐藤優の頂上対決／文理融合『総合知』をもつ人材を育てる」

【新聞全国紙・広告特集記事等】

- 毎日新聞 “新島襄が掲げた良心教育「躍動する同志社」を共に創る”、ビジョン2025教育改革特集、ビジョン2025研究力特集、世界学生環境サミット特集等
- 朝日新聞 「大学力」シリーズ
- 読売新聞 「大学SELECTION」シリーズ、ビジョン2025 リーダー養成プログラム新聞広告
- 日本経済新聞 「教育」“学生に専門超えた知力を リーダー養成プログラム”
- The Japan Times " Global education centered around a sound philosophy”

【Web 配信】

- JBpress（Japanese Business Press）での「京都とグローバルをつなげ、新しい学問分野を作り続ける（伝統と革新の狭間に見える、新しい時代を担う人物への期待）」
- 「THE WORLD FOLIO」に学長インタビュー
  "Giving students a broad perspective and multilateral approach to thinking”

Case #04

卒業生による「同志社大学トークセッション」を東京で開催

幅広い分野で活躍する卒業生の方にスポットを当てたインタビュー形式で「同志社大学トークセッション」を東京で開催しました。登場していただいた卒業生は、スポーツ選手、アナウンサー、起業家、お笑い芸人などフィールドは様々。これからの時代を生きるための重要なヒントを語っていただきました。東洋経済新報社の協力を得て、オンライン配信するなど長期間にわたるブランディング化を展開しました。

未来を切り拓く学生たち

学びとの出合い、人との出会い、世界との出会い…。
同志社大学には、踏み出す一歩を応援する、数々のきっかけと、挑戦し続ける仲間がいます。
VISION2025は自らの夢に向けて躍動する学生を応援しています。

STUDENT'S VOICE

より深く学びたいという思いが生まれ、大学院進学も視野に。

EUキャンパスプログラム参加

吉田 菜津希 さん・グローバル地域文化学部 ヨーロッパコース2年次生

2年次生の春学期にEUキャンパスプログラムに参加しました。学部で必要なドイツ語を学び始めて1年、数週間の語学留学ではなく、4カ月かけてドイツ語の力を伸ばしたいと思ったのがプログラム参加の動機です。

現地では毎日3時間ドイツ語で語学の授業があり、英語は使用禁止。最初は全くついていけませんでしたが、約3週間で授業が聞き取れるようになり、2ヵ月半で思ったことが話せるようになりました。ドイツの社会や文化についての授業や学外での学習もあり、語学以外にも学ぶことが多いのがプログラムの特徴です。特に印象に残っているのはEU議会議事堂への訪問。学部で学んでいるヨーロッパの言語や政治についての知識と、実際に目にしたり話を聴いたりしたことがつながる、EUキャンパスならではの経験にすごく刺激を受けました。

EUキャンパスでの経験を機に専門分野をより深く学びたいという思いが生まれ、今は大学院への進学も視野に入れて学習を進めています。

STUDENT'S VOICE

社会問題を、社会や国家の枠組でもとらえられるようになりました。

新島塾1期生

中田 創太 さん・生命医科学部 医生命システム学科2年次生

文系と理系の垣根を越えて幅広い教養を身につけたい、切磋琢磨できる仲間と勉学に励みたいと考えて新島塾に参加し、2年間にわたるプログラムの1年目が終わったところです。

新島塾で重視されているのは、本を読み、考えたことを、ディスカッションなどでアウトプットすることです。先生も交えて議論をすることで内容の理解が深まり、一人ひとりの成長も促されます。また、受験科目になかった分野を学び直す機会にも恵まれました。法律や外交の知識も身につき、社会問題を、社会や国家という枠組でとらえられるようになりました。

新島塾の活動で印象深いのは夏合宿です。寝る間も惜しんで勉強するハードな3泊4日でしたが、夜は講師である作家の佐藤優特別顧問が親身になって塾生の悩みや迷いを受け止めてくださいました。その時指導された勉強法は今も実践しています。

将来は独立行政法人国際協力機構（JICA）に就職し、科学技術を用いて子どもたちが希望を持てる社会を作るという夢をかなえたいです。そのために新島塾での学びをより一層深めていきたいと思っています。

同志社大学は創立150周年を迎える2025年に向けて、
「躍動する同志社大学」をコンセプトに「同志社大学ビジョン2025」を掲げました。
これまで皆さまから様々なご協力・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
引き続き、より一層のご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同志社大学 2025 ALL DOSHISHA募金

bokin.doshisha.ed.jp/2025alldoshisha/

「同志社大学ビジョン2025」推進のため「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」を立ち上げ、創立者新島襄の掲げた建学の精神である良心教育を通じ、これからも社会に有為な人物を養成・輩出していきます。

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」は、2017年10月1日から現在（2020年1月31日）に至るまで、209社・59団体・3764名の皆様から659,559,498円のご寄付を賜りました。皆さまから賜りましたご寄付は、ご指定の対象事業に対して有効に活用してまいります。

同志社大学カード 同志社大学学生カード

www.doshishacard.jp/

学生や卒業生・教職員など大学に関わる方々の愛校心に応え、同志社大学ブランドの象徴となる大学公式のクレジットカードを発行しました。

同志社大学カードは、ご利用いただいた金額に応じて手数料がクレジット会社から大学に還元されます。（カード会員皆様に手数料をご負担いただくことはありません。）

2018年2月から現在（2020年1月31日）に至るまで、同志社大学カード227件、同志社大学学生カード1,612件を発行いたしました。提携手数料（総額約2,100,000円）は、在学生への奨学金として有効に活用してまいります。